平成25年度(基盤研究(S))研究概要(採択時)

【基盤研究(S)】

生物系 (医歯薬学)



研究課題名 健康長寿のための普遍的代謝調節経路の包括的研究

東京大学・医学部附属病院・教授 **門脇**

研究分野: 代謝学

キーワード: 健康長寿、アディポネクチン、アディポネクチン受容体

【研究の背景・目的】

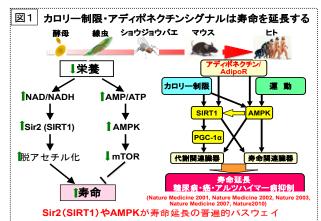
地球上の全ての生物の進化は、飢餓や低栄養に対 する適応の歴史であり、人類も含め、生物の寿命は これらの環境因子によって規定されてきた。実際、 低栄養やそれに伴う免疫力の低下、感染症がヒトの 死亡原因の主因を占めていたことは記憶に新しい。 ところが20世紀後半より、人類はこれまでの歴史 上経験したことがない未曽有の過栄養の時代を迎え、 その過栄養が生活習慣病などの疾患を引き起こし、 寿命短縮の原因になっている。このような短期間の 劇的な栄養・環境の変化によってもたらされる問題 を抜本的に解決するためには、様々な栄養・環境状 態における生物の普遍的生命現象の根源を俯瞰的に 解明し、その破綻のメカニズムを理解することが不 可欠である。本研究課題では、健康長寿のための普 逼的代謝経路の解明とその実現への方法論を確立す ることを目的とする。

【研究の方法】

様々な種類・程度の栄養環境下における生物学的 反応やその調節機構をメタボローム解析、エピゲノ ム解析、トランスクリプトーム解析などの手法を駆 使して明らかにする(栄養シグナルの解明)。この情 報から栄養状態などの環境によって規定され老化や 寿命として表現される個体としての生物学的反応を、 各臓器の反応の違いと臓器間での協調の結果として 俯瞰的に理解することを試みる(長寿シグナルの解 明)。さらに、ごく最近、抗糖尿病ホルモンであるア ディポネクチン/アディポネクチン受容体 (AdipoR) シグナルが新規の寿命決定に深く関わる重要なシグ ナルであることを明らかにし(図1)、その活性化薬 の取得にも成功している。栄養状態などの環境を変 化させ、臓器別の生物学的反応を解析するほか、発 生工学的手法や AdipoR 活性化薬をツールとして、 アディポネクチン/AdipoR シグナルを臓器特異的に 遮断・増強することで、アディポネクチンや既に知 られている長寿遺伝子以外の新たな健康長寿経路を 明らかにする。最終的に、栄養シグナルと長寿シグ ナルの統合的解析により、健康長寿のための普遍的 代謝経路を明らかにし、健康長寿薬としての AdipoR 活性化薬の臨床研究へのステージに進みうるだけの 科学的エビデンスを構築する。

【期待される成果と意義】

本研究により、普遍的代謝制御機構が明らかになることによって、「最も良い食事は何か」「健康長寿を実現するためにはどうすればよいか」の問いに科



たかし

学的根拠に基づいた答えを出すことが出来る。学術的には、生化学・分子生物学・細胞生物学・構造生物学・代謝学・糖尿病学などを融合した分野の垣根を越えた「総合ライフサイエンス分野」の構築に貢献し、それは、生活習慣病の克服、さらには活力ある高齢化社会、先制医療の実現をもたらす包括的研究として意義が高いと考える。さらに現在我々が政行によって、ヒトへの最適化のエビデンスが得られることより、臨床研究へ進み、創薬が実現すると、糖尿病・生活習慣病治療、さらには健康長寿の実現に大きく寄与する。

【当該研究課題と関連の深い論文・著書】

- Yamauchi T, (24 authors) & Kadowaki T. Cloning of adiponectin receptors that mediate antidiabetic metabolic effects. *Nature* 423, 762-769 (2003)
- Iwabu M, Yamauchi T, Okada-Iwabu M, (22 authors) & Kadowaki T. Adiponectin and AdipoR1 regulate PGC-1alpha and mitochondria by Ca²⁺ and AMPK/SIRT1.
 Nature 464, 1313-1319 (2010)
- Yamauchi T & Kadowaki T. Adiponectin receptor as a key player in healthy longevity and obesity-related diseases. *Cell Metab.* 17, 185-196 (2013)

【研究期間と研究経費】

平成 25 年度-29 年度 177,200 千円

【ホームページ等】

http://dm301k.umin.jp